

障害に配慮したヴィジュアル・コミュニケーション活動の支援 2 (学生募集ポスターアンケートのデータ解析)

筑波技術短期大学デザイン学科¹⁾ 電子情報学科情報工学専攻²⁾
 生田目美紀¹⁾ 永井由佳里¹⁾ 北川 博²⁾

要旨：本編は、学生がデザインした「筑波技術短期大学学生募集ポスター」に対する評価アンケートデータの解析結果報告である。「障害に配慮したヴィジュアル・コミュニケーション活動の支援 1」で報告したように、評価アンケートの実施はコミュニケーション活動を誘発し、学生と大学の共通理解に基づく本学のアイデンティティ確立に貢献した。印刷され広報物となるポスターだけでなく、本編による評価結果の公表をもって、在学生の教育成果を社会に広く周知させるという本教育研究活動の目標達成を行う。

キーワード：コミュニケーションデザイン 評価アンケート 学生募集ポスター 聴覚障害学生

1. 本編の位置付け

本プロジェクトは、制作から評価フィードバックまで全般にわたるヴィジュアル・コミュニケーション活動の支援を行うことで、学生募集ポスターの教育的展開を図ったものである。さらに、「展示」および今後の「印刷配布」などを通じて、学生作品である学生募集ポスターの社会的有効利用を行うプロジェクトでもある。

本編では学生に作品評価のフィードバックをするために実施した「第三者評価」アンケートの結果に焦点を当てた報告である。しかし、得られた結果は上記のような教育的側面からの利用のみでなく、学生募集ポスターの社会的有効利用を行うためにも活用できる。

2. 「第三者評価」アンケートの目的

紙によるコミュニケーション活動における、情報伝達のあり方を調査する。

意図した内容が伝達できたかどうかを学生にフィードバックし、コミュニケーションデザイン教育を体感させる。

「筑波技術短期大学学生募集ポスター」として実際に印刷できる作品は1つだけである。選考の参考になるような一般的評価データを収集する。

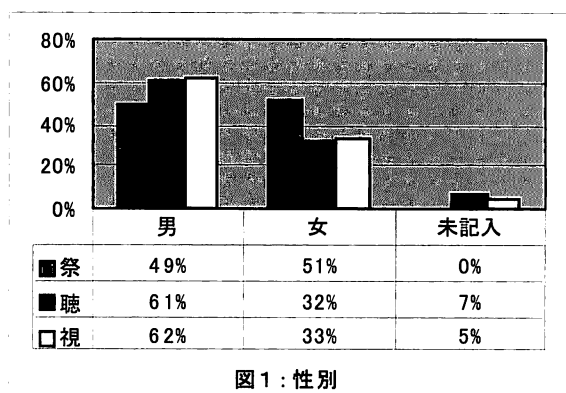
3. アンケートデータについて

アンケートデータのすべては次の3種類に分けられる。

- (1) 祭データ 47名分：平成13年10月6日～10月7日の聴覚部学園祭におけるポスター展示に対する回答。
- (2) 聴データ 84名分：平成13年10月30日～11月7日の聴覚部図書館におけるポスター展示に対する回答。
- (3) 視データ 42名分：平成13年11月6日～11月15日に視覚部にポスターを展示して得た回答。

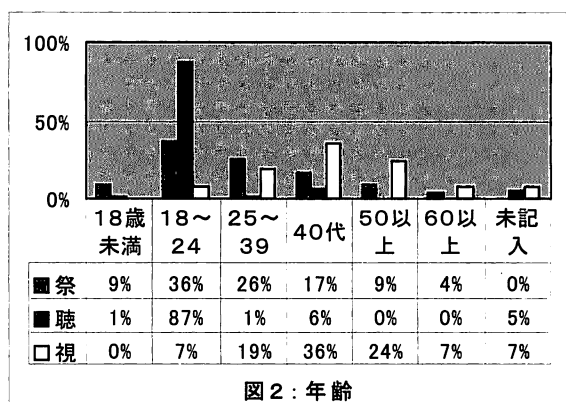
4. 回答者の属性

4.1 性別

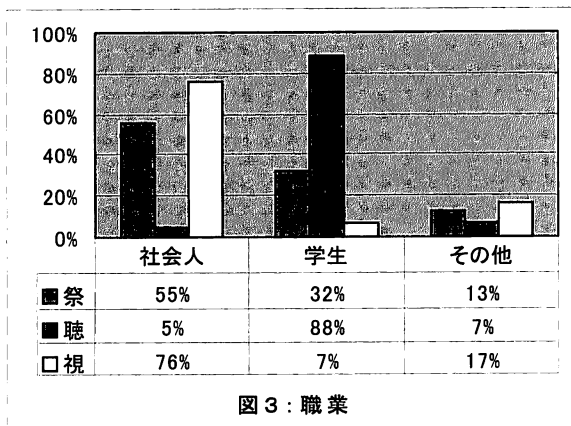


註) 祭・聴・視は、上述の1. アンケートデータで説明したアンケートデータ区分である。

4.2 年齢

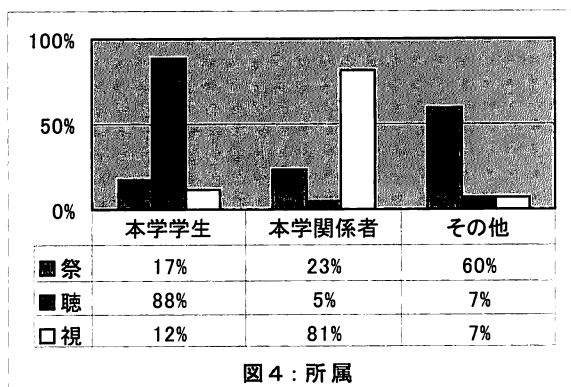


4. 3 職業



注意)「その他」には若干の未記入も含まれる。

4. 4 所属



注意)「その他」には若干の未記入も含まれる。

図1～図4で明らかにされた結果により回答者の属性をまとめると、

- 1) 祭データ: 本学以外の人々が60%を占める。これは、ポスター展示が学園祭におけるためであろう。年齢的に若い社会人が多いことから本学の聴覚部卒業生が多数回答してくれたと考えられる。
- 2) 聴データ: 本学の聴覚部学生が88%を占めている。
- 3) 視データ: 本学の視覚部学生が少なく(12%)、本学関係者が多い(81%)。本学の視覚部の教官・事務官が多くを占めていると考えられる。

5. 好きなポスター

アンケートでは、回答者に10枚のポスター (A, B, C, D, E, F, G, H, I, J)¹⁾を提示し、そこから好きなものを3枚選ばせている。ポスター毎の得票数を延べ投票総数で除算して得た比率データに基づいてグラフを描いた(図5)。

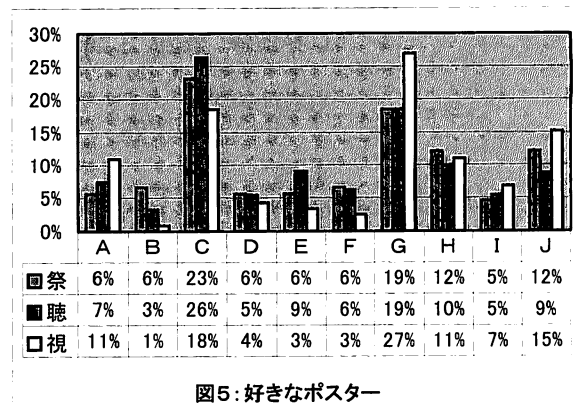
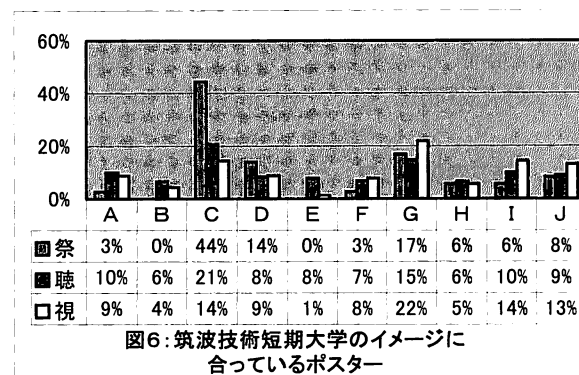


図5からあきらかのように、好きなポスターの上位にはポスターCとGがある。ただし、聴覚関連(祭データと聴データ)では、第1位がポスターCであり、視覚関連(視データ)では第1位がポスターGというように微妙に異なる。

6. 筑波技術短期大学のイメージに合ったポスター

筑波技術短期大学のイメージに合うポスターはどれかという質問に対する各ポスターの得票を延べ投票総数で除算した比率データをグラフ化した(図6)。



7. 文字情報が読みやすいポスター

聴データと視データでは、回答者に文字情報が読みやすいポスターを3つまで選択させている。ポスター毎の得票を延べ投票総数で除算した比率データをグラフ化した(図7)。

8. 大学名がわかりやすいポスター

聴データと視データでは、回答者に大学名がわかりやすいポスターを3つまで選択させている。ポスター毎の得票を延べ投票総数で除算した比率データをグラフ化した(図8)。

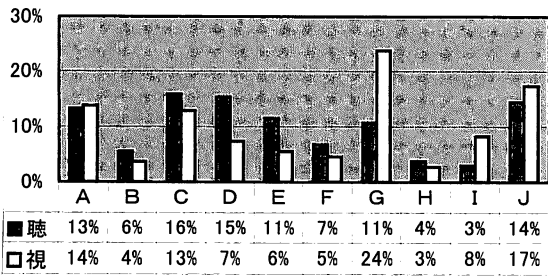


図7: 文字情報が読みやすいポスター

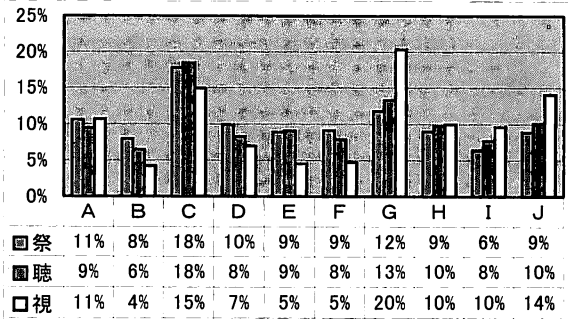


図9: ポスターの総合評価

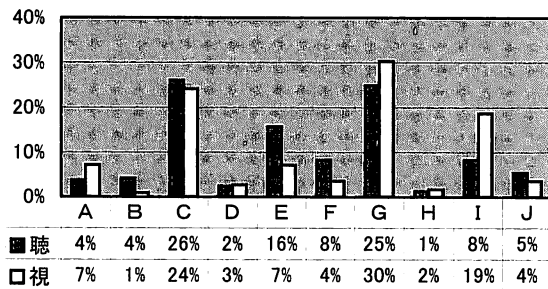


図8: 大学名がわかりやすいポスター

9. ポスターの総合評価

各ポスターについて、それぞれのデザインイメージにマッチしているか否か、さらにポスターそれ自身が「好き」か否か、「短大のイメージに合っている」等、全質問について回答者から投票を受けている。

質問毎の得票数をまとめて総合得点とみなすことができる。これを延べ投票総数で除算したものは、そのポスターの全体の中での相対的な位置を示しているといえる(図9)。

祭データ(回答者47名が質問14問に答えたもの)、聴データ(回答者84名が質問16問に答えたもの)、視データ(回答者42名が質問16問に答えたもの)について集計を行い、図9に示した。

これまでに得た図5~図8は、回答者の好み、短大イメージとの適合性、文字情報の読みやすさ、大学名のわかりやすさ等の観点からポスターを評価したものである。図9はそれらに加えて、さらに12個のデザインイメージとの適合性も含め、総合的にポスターを評価したものである。これによると、ポスターCとGがよろしいように思われる。

では、ポスターCとGとはどんなデザインイメージなのであろうか。その特色をふまえた上で、最終的にどのポスターを採択するかを決定するとよいと考えられる。

10. ポスターCとGのデザインイメージ

ポスターCは、図9によると、第1位にランクされているのは聴データにおいてなので、そのデザインイメージは聴データにおける獲得票に基づいて調べることにする。具体的には、付録・表3の聴データのポスターCにおけるデザインイメージ獲得票のデータをグラフ化した(図10)。先頭の4つからは、将来志向のイメージが感じられる。

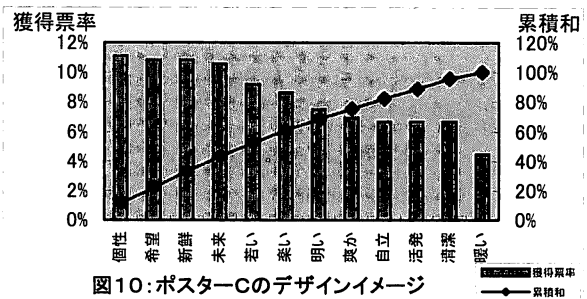


図10: ポスターCのデザインイメージ

同様に、ポスターGは、図9によると、第1位にランクされているのは視データにおいてなので、そのデザインイメージは視データにおける獲得票に基づいて調べることにする。具体的には、付録・表4の視データのポスターGにおけるデザインイメージ獲得票のデータをグラフ化した(図11)。先頭の4つからは、学生讃歌のイメージが感じられる。

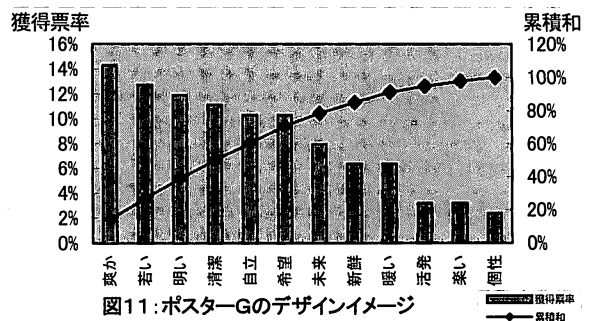


図11: ポスターGのデザインイメージ

11. 考察

11. 1 「第三者評価」結果に基づいた選考の可能性

実験的な学外プロジェクトとして制作した平成 14 年度学生募集ポスターは、エントリーシートおよび専門的な造形表現の分析に基づき選考を行った。

平成 15 年度学生募集ポスターは、本編で述べた一般的评价を把握した上で選考を行うことが可能である。

11. 2 ポスター選考のために

将来志向のイメージが感じられるポスターC、学生讃歌のイメージが感じられるポスターGについて考察を行う。

ポスターCに関するデザインイメージの回答者は聴覚部データに基づいていることから在学生すなわち若者の意見だと考えることができる。ポスターGは視覚部データに基づいているので、本学関係者すなわち大人の意見だと考えることができる。

学生募集ポスターの対象となる 18 才以下の学生からの回答に注目してみると、回答者全員がポスターCを好きなポスターとして選定していた。18 才以下の回答者は 10 名にも満たない数なので、学生募集ポスターの対象者が好むポスターはCであると言い切ることはできないが、興味深い結果である。

ポスターCは若者に訴求する魅力を持った作品であり、ポスターGは大学が訴求したいメッセージを含んだ作品だと考えられる。

11. 3 プロジェクト対象として最適な学生募集ポスター

ポスターアイテムは伝達しようとする側とされる側の関係が明確であり、単独で完結できる対象物であるため、アンケートに適したアイテムだと思われる。

本学学生募集ポスターというテーマは、制作する学生にとって具体的な学習目標を持ちやすいという利点があるだけではない。制作に関わらなかった学生や学内関係者、学園祭に来校した人々にとっても関心の高いものであり、共通理解に基づいたアイデンティティ確立を目指す活動には最適なテーマであるといえよう。

このようなデザイン領域・対象の枠決めは教育に限らず、プロジェクトとして幅広く展開可能である。

12. おわりに

ポスター制作は専門の人間が担当すれば、最小限の労力で最大限の成果を得ることができる仕事である。学生にポスター制作を担当させることは、数十倍もの時間と制作指導のための労力がかかる。しかも、選考の公平性や戦略的な広報活動を考えた場合、評価アンケート実施

やデータ集計解析の仕事まで発生してくる。このように、とてつもない労力がかかるとわかっていても、なお、ポスター制作に学生を関わらせたいと思うのは、学生の感性が世界の未来を創る力を持っていると確信するからである。平成 15 年度のポスターデザインの決定を間近に控えた今、担当者としては手間と労力を惜しまない覚悟のもとに、学生による学生募集ポスター制作の継続を希望する。

本研究は筑波技術短期大学平成 13 年度教育改善推進プロジェクトとして実施した「筑波技術短期大学における、障害に配慮したヴィジュアル・コミュニケーション活動の支援（学生募集ポスターの教育的展開と社会的有効利用）」の一部である。

13. 謝辞

本編の主軸であるアンケート結果のデータ解析および解釈に関しましては、電子情報学科情報工学専攻小池将貴教授より全面的かつ多大なるお力を拝借いたしました。この場をお借りしまして小池教授に心からのお礼を申し上げます。

14. 参考文献

【雑誌等】：

- [1] 生田目美紀, 永井由佳里, 北川博: 障害に配慮したヴィジュアル・コミュニケーション活動の支援 1. テクノレポート: Vol. 9 (1):97-102, 2002.

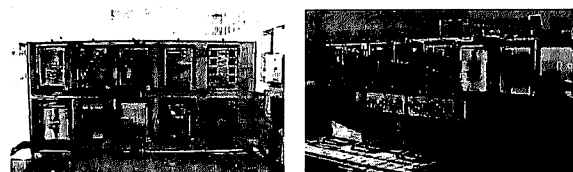


写真1 展示風景 (左: 聴覚部・右: 視覚部)



写真2 展示準備風景

Visual Communication Design Supports that Give Careful Consideration to Handicapped People-2

NAMATAME Miki¹⁾ & NAGAI Yukari¹⁾ & KITAGAWA Hiroshi²⁾

¹⁾ Department of Design, Tsukuba College of Technology

²⁾ Information Science Course, Department of Information Science and Electronics,
Tsukuba College of Technology

Abstract : This report is the result of an evaluation questionnaire regarding "Tsukuba College of Technology The promotional posters for attracting new students" made by current students.

We supported communication activities in the design process, and our college cooperated with the students, resulting in the college identity being established together. Also deaf students had the opportunity to think about a visual handicap, and we could announce a student's education result to society.

Key Words : Communication Design, Evaluation Questionnaire, New Students' Invited Poster, Deaf Students, Educational Method